



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2019
1月号

No.113 佐世保市総合医療センター 医療安全管理部 医療安全管理者 古田美佐子様



【佐世保市総合医療センター／長崎県佐世保市】



【古田様】

■病院の紹介（沿革）

- 明治 23 年 8 月 伝染病院設立
- 明治 37 年 3 月 長田病院と名称変更
- 昭和 28 年 3 月 市立療養所北病院と改称
- 昭和 47 年 4 月 市民病院と北病院を統合し
「佐世保市立総合病院」と改称
- 平成 2 年 3 月 新病院落成式・新病院開院
- 平成 22 年 2 月 地域医療支援病院認定
- 平成 24 年 4 月 救命救急センター開設
- 平成 26 年 3 月 新救命救急センター竣工
- 平成 28 年 4 月 地方公営企業法全部適用から地方独立行政法人へ
経営形態移行
病院名称を「佐世保市総合医療センター」へ改称
- 平成 30 年 1 月 電子カルテシステム（ハードウェア）及び部門システム
更新

【病床数 594 床】

■病院の基本理念

地域の基幹病院として、高度な医療を総合的に提供するとともに、明日担う医療人を育成する。

■病院の基本方針

- ・生命と個人の尊厳に基づいて患者中心の医療を実践する。
- ・救急、がん、小児、周産期及び高度専門を医療の柱として強化する。
- ・地域における政策医療を担う。
- ・学生及び研修医の教育に力を入れる。
- ・臨床医学の進歩に貢献する。
- ・職員の活力と成長を大切にする。
- ・業務の効率化を推進する。
- ・地域医療体制の充実に旗艦的役割を果たす。

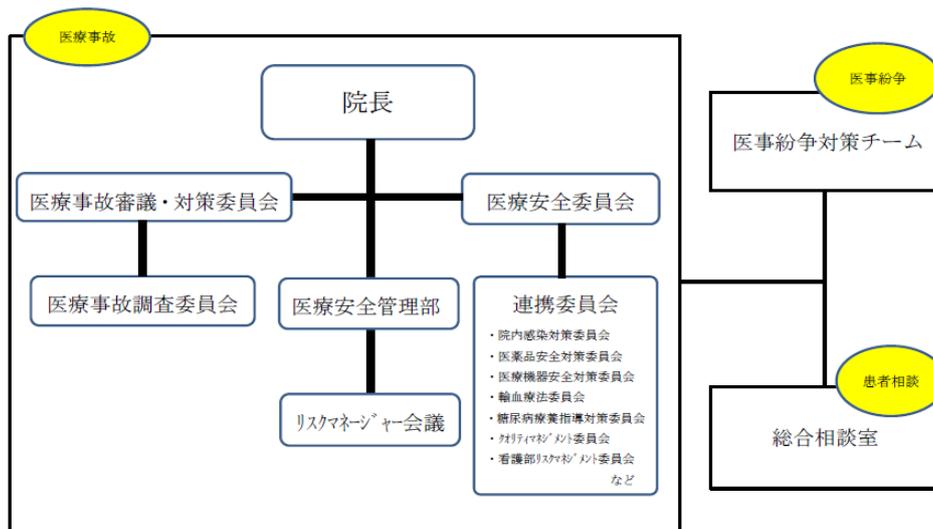
1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制を教えてください。

医療安全管理部は、患者さんに安全で安心できる医療の提供を目的として設置しています。医療安全委員会で策定された指針に基づき、事故防止策の実践や、各部署より収集した情報を基に安全対策を検討し、医療安全と質の向上に取り組んでいます。また、事故が発生した場合の対応を迅速に処理するとともに、事故防止及び安全管理に関する諸問題を具体的に検討し、安全性の向上を図るための取り組みを行っています。

当院の医療安全管理体制は、病院全体の安全対策を総合的に管理・指揮する医療安全委員会と、各部署のリスクマネジャーが構成員となり、リスクマネジャー会議、医療安全管理部から成り立っています。

医療安全管理体制



古田様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

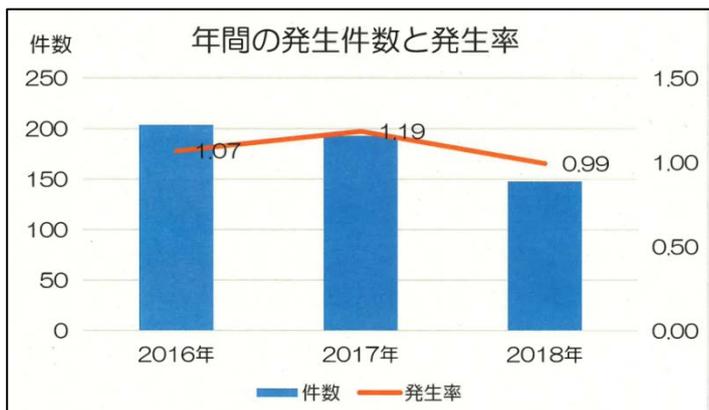
業務内容は以下の通りです。

- 医療事故及びインシデントの収集・調査・分析に関すること。
- 医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。
- リスクマネジャーとの連絡調整に関すること。
- 医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。
- 医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。
- 医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。
- 医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。
- 医療安全委員会の庶務に関すること。
- その他医療事故の防止・医療の安全性の向上に関すること。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

昨年・一昨年と比較すると減少しています。結果を分析すると、患者さんの排泄時に関連する一人行動が、事故の起因理由として多いことが分かりました。そこで、患者さんの単独行動を避けるため、ベッドサイドにポータブルトイレや尿器の設置をやめ、離床センサーを活用し、スタッフが介助することを徹底しました。それと合わせて、ベッド周辺の環境を整備したことが、事故減少結果に結びついていると考えています。



【年間発生件数と発生率】

事故防止のための人的対策（専門チームで活動、ラウンドの工夫など）を教えてください。

当院では、部署ごとにリスクマネジャーを配置しており、部署内での日々の様々な課題を委員会で共有し解決策を考えます。リスクマネジャーは医療安全管理部と病棟などの各部署とのパイプ役となって、円滑に仕事を進める重要な役割を担っています。

また、看護部では看護部リスクマネジメント委員会を設置しており、「転倒・転落」「注射」「内服」「チューブ」の各5名程度のワーキンググループでそれぞれ月に1回の医療安全活動を行っています。

例えば、「転倒・転落」のグループは、「転倒・転落スコアの評価状況、計画立案・評価状況、センサー類使用患者のピクトグラム表示状況」などを監査すると共に、インシデント発生状況の評価を行っています。

3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の年間計画や開催にあたって工夫はありますか？

また、既定（年2テーマ開催要件）の研修以外でも参加率の高い研修内容があれば教えてください。

全職員を対象とした医療安全研修では、参加者の負担を軽減するために「医療安全」と「感染対策」を合同で行い、開催数を年2回と設定しています。研修の内容は、「インシデント事例とその対策」、「患者誤認防止」「腫瘍サポートチーム活動報告」「院内マニュアルの変更」などの項目を織り交ぜて作成しています。その中の、「患者誤認防止」では、当院で報告された事例を基にし、スタッフ出演の「教育動画」を作成し、研修で使用したところ受講職員から「知っているスタッフが演じているので、興味が出たし分かりやすかった」と、とても好評でした。

また、医療機器やそれに関わる用具を安全に正しく使用するために、各メーカーの担当者を講師に迎え製品研修会も行っていきます。テクノスジャパンにも講師をお願いして「離床センサーの選択基準や活用方法」の内容で研修を行う予定にしています。これらの研修会は、スタッフの部署異動があった場合でもスムーズに仕事に活かせていると感じています。

地域の病院と医療安全に関する連携はありますか？

私は「Team ASAKURA」という医療安全チームに参加しています。「Team ASAKURA」は、九州北部地区(山口県を含む)の病院で医療安全管理業務を担っているメンバーで構成され、現在は約10施設が所属しています。

私達チームの使命としていることは、『自らが納得できる医療安全活動ができること』そして、チームの将来像を、『それぞれが自分らしい安全管理者であり続けること』を掲げて活動しています。

参加者は医療安全管理者以外にも医療機器や医薬品メーカー・損保会社など多岐にわたっており、開催テーマに合わせて、メンバーのネットワークを活用して専門家に参加依頼をするなど、自由な形態で運営しています。活動内容は、年間のテーマと実践計画を立て2か月に1回研修会を開催し、課題の取り組み報告や事例検討・勉強会などを行っています。平成27年からは「研修用医療安全教育動画」を制作し、地域医療に貢献できるよう活動しています。

医療安全地域医療連携加算制度の取り組みについて教えてください。

長崎県北地区の医療安全加算1を取得している5施設でチームを組んで活動しています。医療安全管理対策の実施評価はチェック表を基に行っていますが、更に「各施設の安全活動と成功事例の共有」も行っています。敢えてその場でそれぞれの施設の活動自慢を行うことにしているのは、発表した施設では当たり前と行って行っている再発防止策が、他施設では「目からウロコ」のこともあるからです。

4. 離床センサーについて

貴院使用機種：コールマット・徘徊コールⅢ × 18台 コールマット・コードレス × 4台
タッチコール・ケーブルタイプ × 25台

離床センサーを使用する場合の基準や使用の効果があれば教えてください。

立ちあがりの動作に不安がある患者さんには、ベッド柵を握るタイプの「タッチコール」を活用しています。また、独り歩きに不安がある患者さんには、マットタイプの「コールマット」を活用しています。センサーを使用している患者さんからのコールがあった場合にはスタッフは優先して駆けつけて介助することになっています。

※使用上の効果や工夫などは今号の「現場レポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

テクノスジャパンの担当者と当院のスタッフが同行して離床センサーの使用現場でラウンドチェックができたことは良かったです。使用状況下での直接アドバイスやメンテナンス方法の案内などは非常に参考になりました。今後も協力を仰ぎながら、「離床センサー院内活用マニュアル」を作成していきたいと思っています。

6. 何か一言お願いいたします。

病院のPRやポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院は急性期病院という性質上、様々な患者さんを迎えることとなります。全ての患者さんに院内で安心安全な医療やケアを受けていただくだけでなく、「この病院で良かった」と思ってもらえるような病院でありたいと願っています。

これからも私たちスタッフは一丸となって心のかもった安心安全な医療の提供を目指していきます！